

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業  
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)  
 成果報告書 (概要)

受託団体名
香川大学

## 1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人香川大学	特別支援学校	知的障害	かがわだいがくきょういুকがくぶふそくとくべつしえんがっこう 香川大学教育学部附属特別支援学校

## 2. 事業の実績

## (1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成30年7月	第1回実施検討会議 (一年次研究方針)	検討記録
8月	新学習指導要領説明会参加	参加報告
8月	夏季研究集会	指導・助言記録
11月	実態把握 (S-M 社会生活能力検査)	分析・考察
12月	研究授業・討議	指導・助言記録
12月	実態把握アンケート調査 (保護者・教員)	分析・考察
平成31年1月	実態把握 (Vineland II 適応行動尺度)	分析・考察
1月	第2回実施検討会議 (実態把握分析)	検討記録
1月	公開授業研究会	指導・助言記録
1月	県外実践校研究大会参加	参加報告
2月	外部講師による指導・講話	指導・助言記録
2月	新学習指導要領 (高等部) 説明会参加	参加報告
2月	第3回実施検討会議 (一年次研究まとめ)	検討記録

## (2) 研究課題

知的障害特別支援学校における児童生徒の「育てたい力」の明確化及び、「育てたい力」を育成するための指導内容に関する研究

## (3) 研究の概要

次期学習指導要領の主旨に沿ったカリキュラムマネジメントを進めるに当たって、指定校に在籍する児童生徒の実態把握及び児童生徒に育てたい力の明確化、育てたい力を育成するための指導内容の検討を行うために、次に示す取組を行った。

- 1 児童生徒の実態把握及び「卒業までに身に付けてほしい力」の把握

指定校児童生徒の適応能力の状態を把握するため、S-M社会生活能力検査とVineland II 適応行動尺度を実施するとともに、全教員及び保護者を対象に、「卒業までに身に付けてほしい力」のアンケート調査を実施し、児童生徒の全体的な傾向や特徴、教育目標との関係等を検討した。

#### 2 児童生徒に「育てたい力」の見直しと学部間のつながりの検討

指定校がこれまでに整理してきた各学部における「育てたい力」を基に、学部間の系統性を考慮して整理し直すための検討を行った。

#### 3 児童生徒に「育てたい力」を育成するための指導内容の検討

研究授業を通して、児童生徒に「育てたい力」と指導内容との関連や学部間の系統性等について学部を越えた縦割りグループで討議し、教科等横断的な視点で検討を行った。また、次期学習指導要領で示された知的障害の各教科目標・内容を基に整理して「目標・内容表」を作成した。

### (4) 研究の成果

本研究一年目の取組により、以下の成果が見られた。

- 1 指定校児童生徒の実態把握のためのアセスメントとして、S-M社会生活能力検査を小学部・中学部全児童生徒対象に、Vineland適応行動尺度を全校児童生徒対象に実施することで、児童生徒の全体的な傾向や各学部の特徴等を客観的なデータとして把握することができた。また、知的能力との関連を見ることで、個々の児童生徒の特徴を把握することができた。
- 2 「卒業までに身に付けたい力」について、全教員・保護者へのアンケート調査を実施することでニーズを把握し、指定校の教育目標や目指す子ども像の見直しにつなぐことができた。
- 3 前回研究において、「育成すべき資質・能力」の3つの柱に沿ってまとめた「育てたい力」について各学部で検討することで、各学部間の系統性を意識した内容に見直すことができた。
- 4 研究授業において、「育てたい力」の育成の視点で全教員縦割り班での授業検討・討議を行うことで、学部間のつながりを意識した指導内容について検討した内容をまとめることができた。
- 5 次期学習指導要領で示された知的障害の各教科目標・内容表を基に、国語科及び算数科・数学科の年間計画を整理し直し、各学部間の系統性を検討することができた。

### (5) 課題と今後の方策

次期学習指導要領では、「個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること」と明示されている。今回研究において、指定校児童生徒に「育てたい力」を明確にした上で、その育成のために学部間をつなぐ視点での年間計画の作成や授業検討の在り方について成果が見られた反面、その評価の方法や評価を改善に結び付けていくサイクルは確立できていないという課題がある。

今回研究において、指定校児童生徒の実態の全体的な傾向を把握することを目的に、S-M社会生活能力検査及びVineland-II 適応行動尺度等のアセスメントを実施し分析を行った。今後は、これらの実態把握を個別の指導計画の作成や評価のためのツールとして活用することの効果を検証するとともに、個別の指導計画の評価を指定校の教育課程の改善に活かすためのサイクルについて検討する。また、今回研究において各学部の実践に基づいた年間指導計画の見直しを行った。今後は、次期学習指導要領（高等部も含む）を基に、各学部の段階を系統的に並べた目標・内容表等を活用して、年間指導計画における学部間の学習内容の系統性について検討し整理する。さらに、今後も研究授業を通じて、児童生徒に「育てたい力」を育成するための指導内容の検討を行う。

